

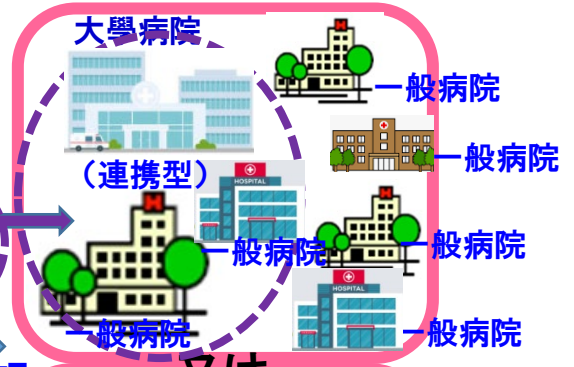
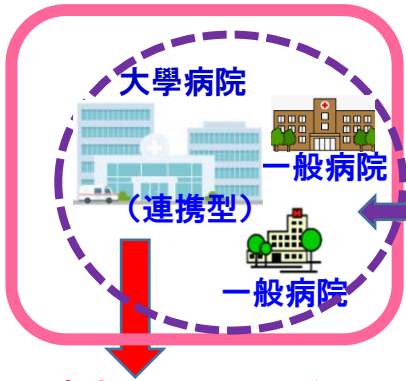
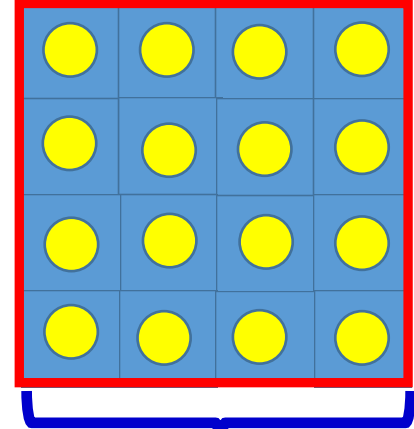
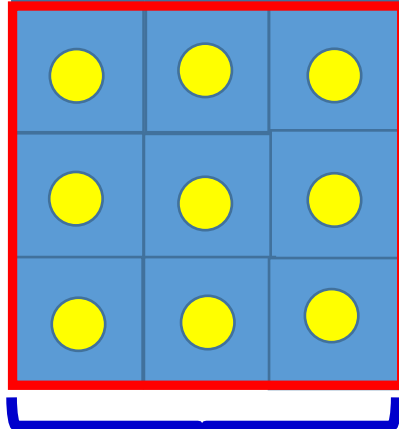
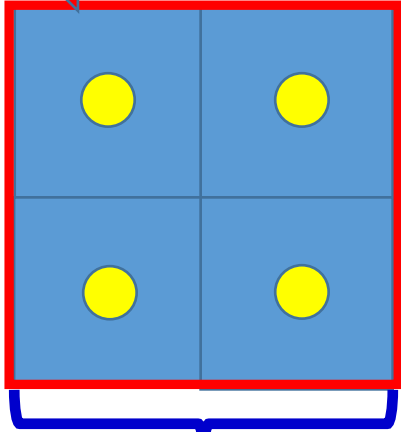
# 大學病院の在り方の概念図

日本病院会会長  
相澤孝夫

2023年7月5日

人口密度の増加

人口密度の低下



連携協定機構 (仮称)

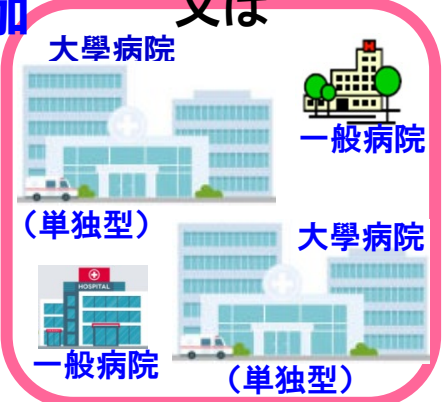
連携協定機構 (仮称)

人口密度の低下により単独では大学病院機能の維持が困難、密度の低下が激しければ連携しても機能維持は困難となる。  
**診療、研究、教育の全てが十分に成り立つ人口規模とは！**  
**大学病院が全てを抱え込むか？**  
**医師派遣機能のみで十分か？**  
**地域貢献とは病院を育てること？**

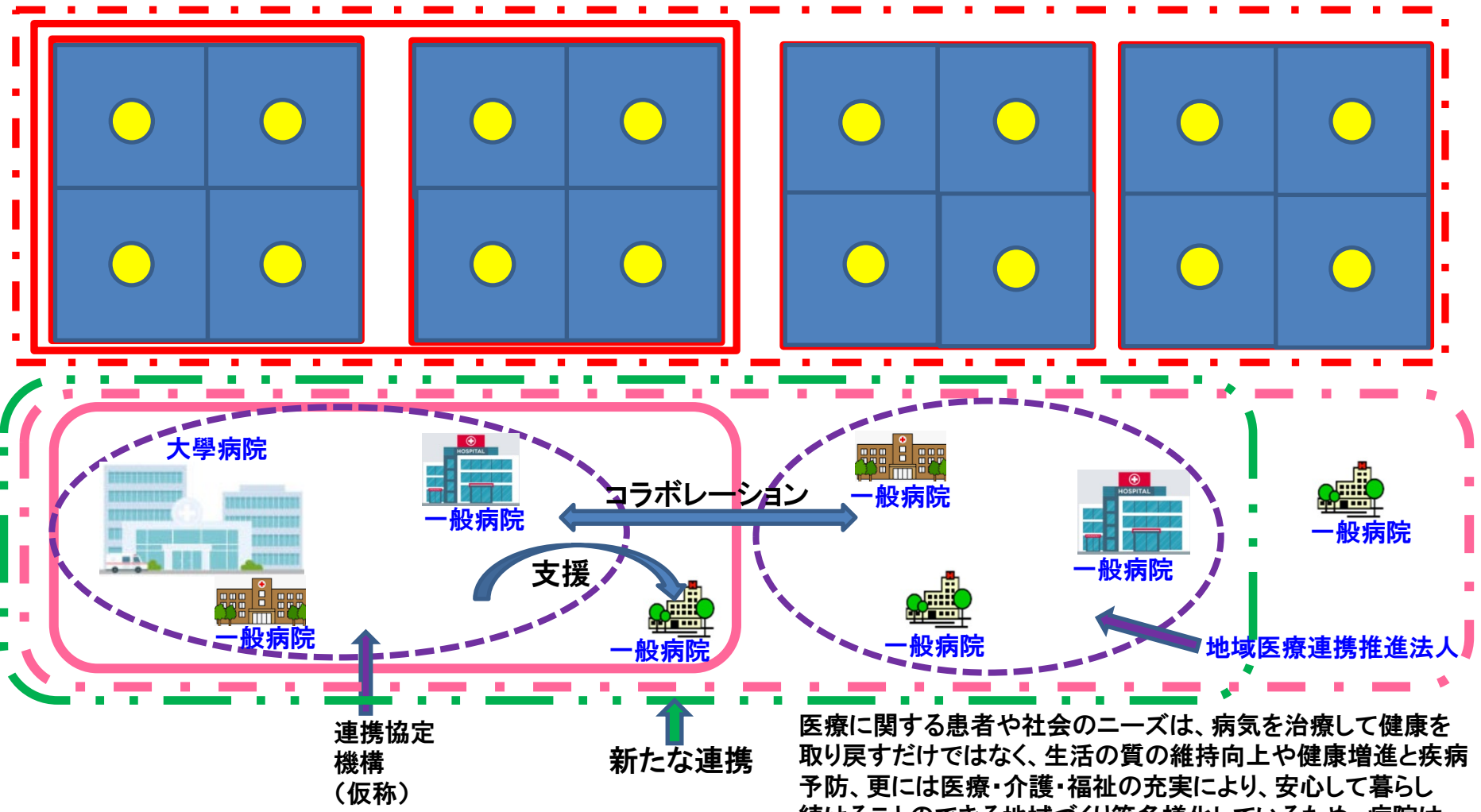
又は

病院数増加  
規模拡大  
連携強化

又は



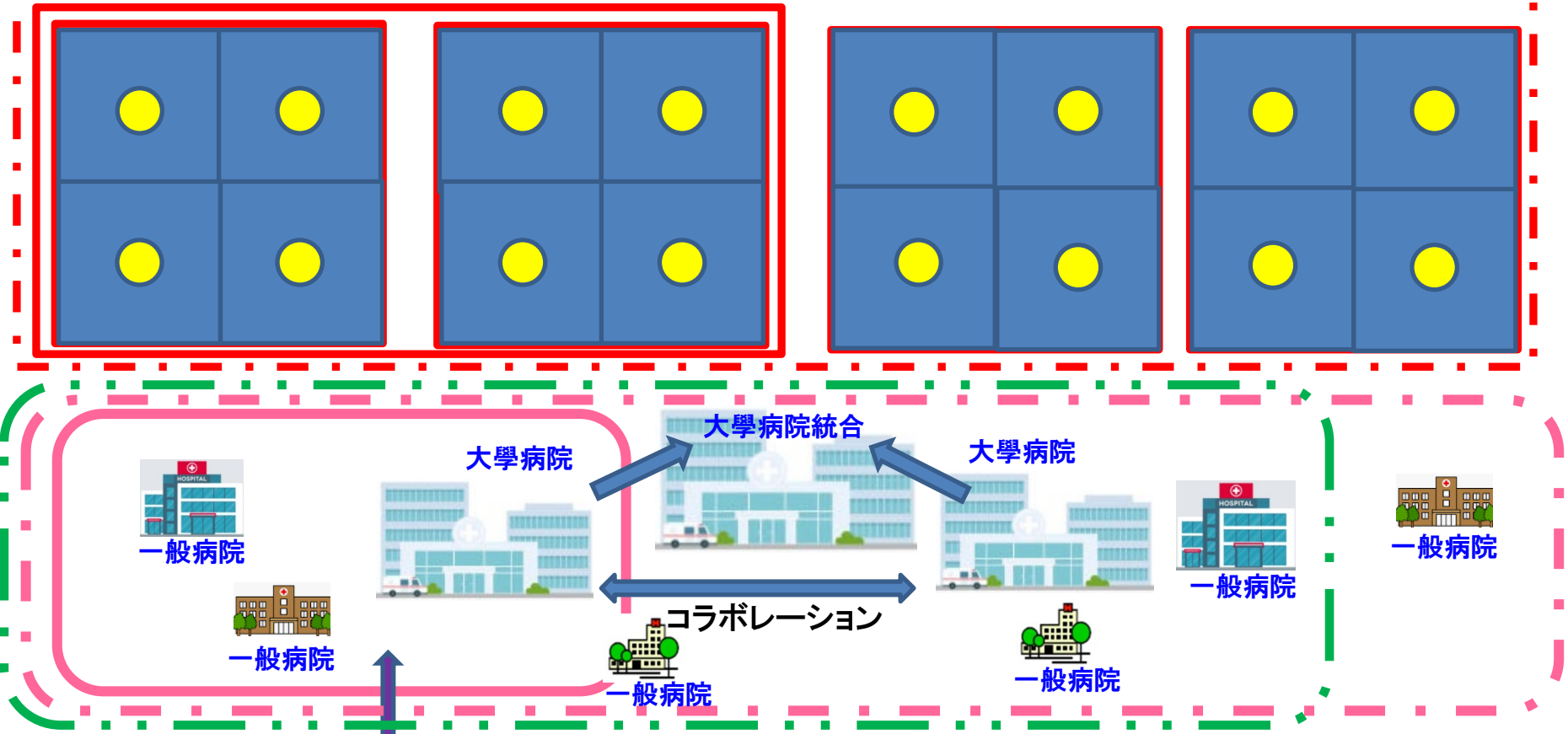
# 人口密度が薄くなれば圏域の拡大を図るしかない



人口密度が薄くなれば大學病院の機能を1病院で果たすことが難しくなるため、大學病院を中心とする病院群で機能を果たすことが重要となる。

医療に関する患者や社会のニーズは、病気を治療して健康を取り戻すだけではなく、生活の質の維持向上や健康増進と疾病予防、更には医療・介護・福祉の充実により、安心して暮らし続けることのできる地域づくり等多様化しているため、病院は競争的競争ではなく、役割を分担しながら病院間の連携を強化して地域医療を担うことが必要である。大學病院を含めた地域の病院群が相互の役割分担と連携で、健康・医療・介護・福祉のニーズを充足することが重要となる。大學病院が全てを差配することは困難。就職先としての大学のミニチュア病院ではない病院を育て、役割分担を図ることも必要。

人口密度が薄くなれば圏域の拡大を図るしかない。この時に重要なことは如何にネットワークを構築して地域医療を確保するかということであろう



連携協定  
機構  
(仮称)

人口密度が薄くなれば大学病院の機能を1病院で果たすことが難しくなる。では如何していくのか。を真剣に考えるべき時期が到来していると思えてならない。

人口減少が続く我が国では、大学病院が従来の圏域内では医療需要が減少して、診療、研究、教育に資する症例を確保する事が難しくなる。症例を確保できる人口規模の圏域とするためには圏域の拡大が必要となる。この時には、拡大圏域内にある大学病院は統合して2病院を一つにするか、2大学病院を残しながら連携協働するか、等の対応を考えなければならなくなる。